

第70回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

日 時 令和2年8月27日(木)・19時開会
場 所 相模湖総合事務所 大会議室
出席委員数 25名出席(3名欠席)
傍 聴 者 1名

1 開会

2 代表あいさつ(長谷川代表)

長谷川代表のあいさつの後、代表の司会により進行した。

長谷川代表が、委員の変更及び所属団体について報告した。

区 分	旧 委 員	新 委 員
委 員	小川 賢一 委員 所属団体：相模湖商工会(副会長)	小野沢 健二 委員 所属団体：相模湖商工会(事務局長)

*新委員が自己紹介を行った。

3 協議事項等

(1) 相模原市地域活性化事業交付金制度について

事務局から相模原市地域活性化事業交付金制度の概要及び申請事業の審査にあたり、まちづくり会議委員からの意見のとりまとめ方について説明があった。

(2) 相模湖地区の課題等(第6期相模湖地区まちづくり会議委員による意見交換について)

最初に、事務局から今後の進め方及び本日のグループワークの進め方について説明があった。

続いて、4つのグループで地区の新たな課題及び対応方策の洗い出しを行うための意見交換を実施し、結果を発表した。

主な意見等

グループ 1

- ・子どもが育つ環境は市内で差があり、相模湖は子どもの数が減少しているため、小学校の統合についても考える必要があるのではないかと。
- ・少人数教育は目が行き届いてよいという話もあることから、少人数教育のよさをアピールしてもよいのではないかと。
- ・見守り隊の高齢化が顕著であるため、スクールバスの導入ができないかと。
- ・子育てのお母さん同士の集える場がないため、子育てサロンの設置について考

えていく必要がある。

- ・午前中を中心に、地域活動として、必要とされている家庭や、お母さんへの助けがあるとよいのだが、窓口がどこなのか分からない。
- ・交通の便がよい地区なので、高等学校の誘致ができないか。
- ・災害時などの臨時対応として、児童クラブに子どもを預けられないか。それに合わせ対象学年を6年生まで引き上げられないか。

グループ 2

- ・先日、緑区長からコロナ禍によるリモートなどで移住者が増えているというお話を聞いた。相模湖ではどうなっているのかという所で、藤野の観光協会に聞いた所、ここ数ヶ月で100件以上の問い合わせが来ており、6割の方が現地を見に来ているという状況で、15件の契約が決まったとのことであった。相模湖地区もエリアには含まれているが、殆どが藤野地区だと思われる。
- ・藤野地区を中心に行われている「里まっち」を相模湖地区に広げられないか。
- ・「すもうよ緑区」ができたのが2017だが、どこが窓口なのか分からない。
- ・相模湖地区においても受入れ体制が整っていない。相模湖はよいところだと語れる人がいない。こういう所がお勧めですよという話ができる人がいない。
- ・空き家情報などの調査がされていない。空き家、売地など専門の人が調べるのか。行政で行っていただければ安心できるのだが。
- ・築30年位の物件をリフォームしたいと考える人がいると思うが、業者が分からない、どこに頼んでよいのか分からない、情報がないなどの課題があり、情報を充実させることが必要である。
- ・商工会女性部では、全ての情報がQRコードで分かるような冊子を作成したいというお話が出ている。

グループ 3

- ・子どもが少なく、相模湖地区においても学校の統合について考える時期に来ているのではないか。
- ・少人数ならではの、人とのつながりが強いなどよいところもあるが、競争力や学力に差が出てしまうのではないか。
- ・生徒を増やす前に住みやすい環境をつくることが重要である。
- ・20代、30代の世代は魅力がないから流出している。
- ・受け皿として住宅が建てやすくなるような区画整理が必要。
- ・昭和40年代には農地を宅地に転用できたが、現在はできない。
- ・民生委員が空き家を調査し、多くあることが分かったため、宣伝するとよいと思う。
- ・空き家とそれを求めている人を結びつける事務局機能があるとよい。
- ・駅周辺の駐車料金が下がり、中央線が利用しやすくなったため、ショッピングセンターができればより活性化になると思う。
- ・駅に自転車で移動する人のための作業場所、組み立て場所を設置してみても

うか。

- ・健康志向、登山を楽しむ人のために、市民の森の木で遊ぶ、山について学ぶなどのイベントを活用してはどうか。
- ・地域に定着するために、教育面で高校進学等の選択肢を増やした方がよい。

グループ 4

- ・現状の人口をキープするためには、より高みを目指さないと難しいと思う。
- ・雑誌でもテレワークを前提にした転居の動きとして、高尾駅から一駅先の相模湖駅がとりあげられている。
- ・リモートワークの推進を図る対策としてどう展開していくのか。PR の仕方、周りの資源の掘り起しが必要である。
- ・地区の人は自分たちが持っている宝物に気づいていない。打開するためには外の人、都市の人との交流を進めて、魅力を見つける必要がある。相模湖の魅力を見つけないと移住・定住には結びついていかないと思う。
魅力の一つとしてワーケーションが考えられる。自分の趣味を楽しみながら仕事ができる環境整備が必要だと思う。湖や森林などを活かして生活がエンジョイできる環境の整備について色々なアイデアを出し合いながら進めていきたい。
- ・藤野とタイアップして湖を活用しながら、両地区のよい所を広めていき、広い意味での緑区を目指していく必要があると思う。
- ・大学生をターゲットに話を伺えば、沢山のアイデアを頂くことができ、将来が見えてくると思う。
- ・内郷地区の土地活用については、農振農用地の網があり、家が建てられない状況であるが、今後、広がっていくところは内郷地区なのだからその網を解除しなければ開発が進んでいかないと思う。

4 その他

倉田委員からフランスベッド総合研修センター相模湖学園跡地に、新たに町田・デザイン専門学校が2020年秋に相模キャンパスとしてオープンする予定であるとの情報提供があった。

森久保理事からサンデー毎日に掲載された、テレワークを前提にした転居の動き等の記事について情報提供があった。

5 閉会

次回全体会の日程を確認し、河津副代表による閉会